

■ 2023年度　社会福祉法人なないろ 法人事業報告

1、《事業方針》

障害者の権利を保障し、地域でふつうの暮らしができる地域社会の実現を目指しながら、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されると共に、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する事を目的とする。

2、本年度の展開

1、社会福祉法人なないろの今後 10 年先を見据えた、中・長期計画を作成していく。

→理事長・法人事務局体制の整理、各事業所管理者運営体制の確立。一部利用者の加齢化を念頭に置いた支援体制の整備（GH 等）。会議・研修体制の再確認。資格取得体制の見直し。運営体制の世代交代を意識した職員人事。

2、法人内組織体制を、世代交代と共に支援や組織の見直しを図っていく。

→各事業所の管理者、サービス管理責任者、サービス提供責任者の位置づけをはっきりし、役割や責任の所在の明確化に努めた。職員の退職等が何名かあり、積み重ねが不十分のうちに経過してしまった。

3、利用者さん本人が、生活・活動の主人公になっているか等を改めて問い合わせていく。

→個別支援目標作成時等、必ず本人と顔を合わせて面談をし、なるべく本人の気持を聞き取るように努めた。

4、職員の次世代育成を図る。（育成を踏まえた法人内異動と責任の分担。）

→3~4 年単位で部署異動を原則的に行い、新しい視点や経験を大事にしていく方向を目指したが、職員の退職や新規入職が先行してしまった。各委員会の設置と委員長の指名。（苦情解決委員会、虐待防止委員会、事業報告冊子作成委員会、BCP 作製委員会）

5、グループホームの 24 時間、365 日開所を目指す。今後とも 1 か月の変形労働制を継続する。

→ほっと・ホットを中心とした開所体制の検討は不十分のまま推移。利用者さんの加齢化や家族の支援力の低下が懸念される。利用者や家族のニーズの変化に柔軟に対応をして行く必要がある。

6、災害時に対しての災害時物品、食料等の確保とローテーションの準備・充実。

→年度初めのタイミングで、新規防災物品や食料野購入を行っている。食料についても、賞味期限が切れて棄却することが無いよう、避難訓練時等に食べる場面を作っていく。

[運営推進状況]について

1、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響について

令和 5 年度も単発的に、コロナウイルス感染症が流行した。感染力は強いものの、症状は比較的軽く済むことができた。コロナ抗原抗体検査キットを使用しての陰性確認を、週に 1 回、令和 5 年 1 月から 3 月にかけて実施した。職員や利用者さんの出勤時検温測定を、令和 2 年 11 月から、令和 5 年 12 月まで義務化した。

2、事業運営透明性の担保

毎年度末、事業報告冊子を作成・配布している。今年度も事業報告冊子を発刊した。年に 4 回ニュースレターの発刊を実施。また、法人ホームページに毎年の事業報告等を掲載。

2023年度 「相談支援事業所なないろ」事業報告

はじめに

なないろの相談支援事所開設後 12 年を経過しました。現在は、法人内利用者と法人外利用者が約 40 名・40 名の半々の方々に対して対応しています。

令和 6 年 4 月から、基幹相談支援センターと地区別 6 か所が中心になって、複数事業所による協働モデルをスタートする予定でしたが、各サポートセンターと所属の法人との意向が一致せず、半年ほど先延ばしの状態になっています。なないろも、特定指定相談事業所ですが、協働モデルの一員の中に入り、報酬増による収支の改善をはかっていきます。

なないろ相談事業所相談担当者の加齢化に伴い、そろそろ相談支援専門員の世代交代が必要な状況となっています。

1、利用者支援

対象利用者： 83 名 男性：54 名 女性：29 名 （10 歳～ 65 歳）

- 1) ・一般相談支援事業（移行支援・定着支援）精神の方の退院促進や知的の方の入所支援施設からの地域移行等の事業。（対応実績なし）
・その他一般相談（来所相談、電話相談）（障害者 延べ 17 名）（障害児延べ 4 名）
- 2) 指定特定相談支援事業（サービス計画作成）（計画 38 件）（モニタリング 177 件）
- 3) 障害児相談支援（サービス計画作成）（計画 3 件）（モニタリング 2 件）
- 4) 障害支援区分認定調査委託事業（0 件）（認定調査員不在。4 月以降は未実施）

相談種類	障害者			地域移行	地域定着	障害児		
	計画	モニタリング	一般 (電話含)			計画	モニタリング	一般 (電話含)
相談内容	計画	モニタリング	一般 (電話含)					
令和 5 年 4 月	3 名	16 名	2 名	0	0	0 名	0 名	0 名
令和 5 年 5 月	3 名	14 名	1 名	0	0	1 名	1 名	0 名
令和 5 年 6 月	3 名	18 名	2 名	0	0	0 名	0 名	1 名
令和 5 年 7 月	3 名	8 名	2 名	0	0	1 名	0 名	0 名
令和 5 年 8 月	2 名	17 名	1 名	0	0	0 名	0 名	0 名
令和 5 年 9 月	5 名	13 名	3 名	0	0	0 名	0 名	0 名
令和 5 年 10 月	1 名	20 名	2 名	0	0	0 名	0 名	0 名
令和 5 年 11 月	1 名	12 名	1 名	0	0	0	1 名	1 名
令和 5 年 12 月	1 名	18 名	3 名	0	0	1 名	0 名	0 名
令和 6 年 1 月	3 名	10 名	2 名	0	0	0 名	0 名	1 名
令和 6 年 2 月	7 名	15 名	0 名	0	0	0 名	0 名	0 名

令和 6 年 3 月	5 名	11 名	1 名	0	0	0	0	1 名
合計	38 名	177 名	17 名	0	0	3 名	2 名	4 名
	232 名			0	0	9 名		

支援の方向性（総括）

- ・利用者本人との面談の機会を大事にしていく。本人の言葉・エピソードを大事にしていく。
- ・ケース会議については、計 14 回開催。「病院退院後受入れ時の情報共有」、「後見人新規受任に当たっての情報交換」、「精神科病院退院後の GH での生活状況や就 B 利用について」、「グループホームでの生活状況の確認」、「精神科病院退院後の受け入れ態勢について」、「生活介護等就労状況の把握」、「訪問診療の実情と生活介護欠席の相関関係について」等の内容。自宅や通所先での粗暴が顕著な方が、40 日間精神科病院に入院したが、入院中の本人の様子や退院後の受け止め先分担等で、何回もケース会議を開催した。

一般相談

- ・独居で自宅で生活している方が 2 名。1 名はてんかん発作等の体調不調をかかえ就労継続 A 事業所に勤務。金銭管理が不十分、クレジットサイト利用等課題多く。支払の請求が多く、消費者相談センターに相談、また、後見人（保佐類型）の受任が決まった。他の 1 名は生活保護利用、健康診断の中で前立腺肥大の指摘等を受け、定期受診。病院同行をしている。
- ・2 年間、複数短期入所利用を継続していたが、難病を併発。約半年間入院し、入院中視力が極端に落ち、左目失明。右目も弱視状態。GH から 3 か所の通所先に通っている。
- ・20 年以上自宅からあまり外に出られない方が 2 名。本人やその家族を支える訪問介護や看護、訪問歯科、移動支援事業所の調整。
- ・学校・放デイ・家庭等で粗暴行為頻発。各事業所間と学校との協議・会議を調整。
- ・思春期や過敏性が高度な自閉症の特性理解や対応について、特総研等の専門機関のアドバイスが欲しい。

サービス計画作成（モニタリング）

- ・3 か月もしくは 6 か月に一度のモニタリングを実施。ライフステージ上のイベントや緊急性がある以外は、定型化して簡易なスタイルで実施検討。

児童相談

- ・障害児の計画相談は、現在 3 名。うち 1 名が高等部 2 年生。本人の特性を受止めて暮れる生活介護や就労 B の事業所を探している。

- ・1名は医ケア児で市立支援学校中学3年生。昨年が胃ろう形成、今年度は側弯変形が90°以上となり、ボルト固定の手術を行った。

認定調査委託事業

- ・市からの委託で月1~2名ペースにて認定調査を実施していたが、稼働できる認定調査員資格者が昨年9月から不在になり、現在は活動を中止している。

2、事業所運営

職員：常勤兼務職員1名。

- ・1名の常勤兼務職員で相談事業を実施。相談のニーズは高いが担当相談員の加齢化もあり、十分な対応が出来ているとは言い難い。

会議

- ・担当者会議…緊急ケースやステージ変更時で14回開催。
- ・相談事業所地域会議…2回実施参加。
- ・相談支援連絡会全体会…1回実施参加。

研修体制

- ・相談支援専門員初任者研修修了者は現在6名。5年毎の現任研修は、相談事業所での実際的な活動が求められるようになってきている。実際の活動実績が必要になっている。
- ・障害支援区分認定調査員研修修了者は6名。しかし、実際に訪問調査を行う時間があ職員が不在で実施できていない。
- ・社会福祉士現場実習の県立福祉大学生の受け入れは今回は希望者が不在であった。
(社会福祉士資格取得者の養成や社会福祉士養成実習資格者の確保が必至。)

関係団体との連携

- ・施策検討連絡会への定期的な参加。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【サービス計画作成やモニタリング報告作成時に、極力利用者本人と顔を合わせ、意見や思いをくみ取る努力をしていきます。】

- ・コロナウイルスが心配で、家庭訪問を拒む家庭がまだ1件あった。極力本人と会い様子を見たり、話を聞くようにしているが、時間がなく職員や家族との情報収集に偏りがち。

【グループホーム等に入所した方々のアフターフォローに力を入れて行きます。】

- ・親の加齢化に伴い、暮らしの場を求めているケースが増えている。今年 GH に入所した方は 2 名。1 名は三浦市に、1 名は茨城県の GH を利用している。

2023年度【ほっと・ピア】事業報告

・職員体制

2023年度ほっと・ピアは管理者（サービス提供責任者兼務）1名、常勤職員1名、パート職員1名で年度末を迎えました。年度中、ヘルパーさんの退職もあり増え厳しい運営状況になっています。

・ほっと・ピアの移動支援の基本方針について

法人の基本理念でもあるハンデがあっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていくための支援を移動・居宅・家事・通院・余暇を通して必要とされるところにヘルパーの派遣をします。常に基本的には公共交通機関を利用するなどを念頭に置いて支援を続けています。しかしながら現状は、曜日によって支援者の人数が不足してしまい、車両送迎が増え日中活動やグループホームの職員の助けを仰がざるを得ない状況です。

また、朝と帰りに少しでも運動量をプラス出来たらと思う一方で利用者さんの加齢に伴い、安全面を考慮する場面も出てきていますので基本方針に基づきながらも個々に合わせていく支援をできるよう努めます。

・研修体制

3月9日（土）午前にヘルパーとドライバー研修を実施しました。
主にヘルパー、ドライバーとしての基本的な姿勢について確認を行いました。

・事業所運営について

月1回のピア会議については継続して実施しています。
福祉有償運送については安全運転管理者を置き、アルコールチェッカーを導入。日々の安全管理に努めています。14万キロ以上走行した軽自動車を1台入れ替えさせていただきました。

・重点目標について

ほっと・ピアは利用者さんの「暮らす」「通う」「遊ぶ」を叶える事業所であるために、安心、安全な送迎をしていきます。利用者さんの安全がご家族やグループホーム職員や通所先職員の安心につながっているように、「今ここ」においての利用者さんの支援で安心、安全に留意していきます。

ヒヤリハットや事故もありました。交通事故や怪我、重大な事案はありませんでしたが、軽微なミスや、うっかり忘れ、大きな事故につながりかねない事象もありました。重大事故の

芽を小さなうちに積んでおくためにも、軽微なミスやヒヤリハットを減らしていくことが重要だと思っています。

2023 年度 「トライ I」 事業報告

○はじめに

・2023 年度は一人の方を迎えて 9 人の体制で迎えることが出来ました。新たな人との出会いは嬉しいものです。その中でお互いに拘りやルールを伝え合い、向き合い、ほんの少しですがお互いを知り合うことの出来た一年になったと思います。個人の権利など改めて考えさせられる事や初心を思い出される事もありました。こちらの認識不足でご迷惑、ご心配をおかけした案件もありました。色々あった一年ではありましたが、新しい職員の体制も落ち着いてきており、2024 年度は内外共に活動の幅も広げていけそうです。

1、利用者支援

利用者： 9 名 男性： 6 名 女性： 3 名 19 歳～ 41 歳

給与及び賞与

基本給：日給 150 円

手当：年度末手当 2000 円

賞与：夏季 10000 円(内 4200 円積立金) 冬季 10000 円

今年度も非常時の為に通帳に貯蓄していた 100000 円から 37800 円を降ろし賞与とし補填しました。夏季賞与から旅行積立金として 4200 円を引かせて頂きました。

※今年度は夏季賞与からの旅行の積立を実施しました。

前年度実績 夏季（7 月）5000 円(内 0 円積立金) 冬季（12 月）10000 円(内 0 円積立金)

年度末手当円支給 年度末の手当て 3000 円

※(月別売上報告は別紙)

○作業・日中活動

作業ではみんなで取り組む姿勢を大切にしています。全員参加でクッキーの作業に取り組み、向き合い、作れるようになってきています。午前はクッキーの型抜き、並べ、午後は軽量、袋詰め、シーリング、ラベル貼りなどひとり、ひとり役割分担がより明確になってきているようになっています。作業も楽しく取り組めるように職員は周りの雰囲気つくりも意識しています。

○利用者会議

- ・トライワンダフル会議の名で利用者会議を不定期ではありますが行っています。行きたい場所やカラオケの選曲や調理のメニュー、デザートのゼリーの味などなど身近な興味を持ちやすいであろう事を議題としています。○×の札を使ったり、カタログを見ながら決を取り、言葉の無いメンバーの気持ちを発信する場、伝える場として大切にしています。真意や本当の気持ちを汲み取ることは難しいですが、何かを発信し伝えてもらうことを伝わる事を認識してもらえるようにしています。

○販売

- ・県立福祉大の8月オープンキャンパス、11月海風際にて販売を実施しました。福祉大のイベントですから次年度は利用者さんとの販売も検討していきたいと考えています。
- ・今年度も平成町のハウジングプラザ内での販売の機会を頂きました。扱っている商品に合っているイベントなので天気に左右されがちではありますが安定した売り上げを保っています。
- ・今年度の障害者キャンペーンの販売は各部署で話し合った上、コースカは不参加、市役所の販売のみとさせてもらいました。
- ・ご紹介して頂いて委託という形ですが追浜際にも商品を出すことが出来ました。

○調理、絵画教室、運動プログラム

・調理実習

毎週木曜日に300円を集めさせていただき、調理実習を実施しています。新しいメニューや食べたことのないものを初めてのものを提供し作れるように意識しています。生活の一部であり大切な食べる事、新たなおいしいと思える事の経験と回数が小さな幸せが増やしていくと良いかと思います。3月の外食の時の昼食代は集めた調理代から支払いをさせて頂いています。

・運動プログラム

- ・特別なプログラムはありませんが、体を動かすこと、出来ることを出来る時にしていく活動になっています。室内でなく、野外にて天気の良い日に長めに歩くようにし、特別なことではありませんが無理なく現実的に出来ることを出来る形で実施するようにしています。定期的な運動のプログラムも実施していきたいと考えています。

・絵画教室

- ・毎月、講師を招いての実施を続けています。新しい試みはありませんが一人一人の個性に合った書き方や創作方法、探して実践しています。楽しみにしている方も多く、豊かな生活中ではとても大切な時間になりうると考えています。今年も文化会館での平和

展へはみんなで見学に行くことが出来ています。

○旅行・外部活動

- ・ふれあい交流会、観音崎ビーチクリーン、ふれあい運動会などに参加が出来ました。3月には三崎に全員でドライブに行き、昼食をファミリーレストランで頂きました。昼食代は調理代から支払いをしています。メニューを見てひとりひとり好きなものを頼むようにしています。

○健康管理

- ・コロナだけでなく、インフルエンザ感染が拡がり2日間の閉所を余儀なくされました。コロナ感染の対応が落ち着いてきた矢先、ほとんどの利用者、職員が感染する形になつてしましました。衛生管理の点で気の緩みのようなものがあつたようにも感じています。
- ・検診で採血が苦手で難しい方とは職員が病院へ同行し採血を行えるように促しました。

○防災

- ・火災と地震の想定で年に三回、避難訓練を実施し、伝言ダイヤルによる法人本部への報告をしています。伝言ダイヤルはご家族の方も確認することが出来るようになっています。
- ・個別避難計画の一環として徒歩での避難想定しグループホームへの徒歩で帰宅を2023年度再開の予定でしたが再開できませんでした。今年度かの実施を目指します。各自、自宅に帰る想定、練習も想定して自宅に帰れない状況や可能性も配慮し必要な訓練計画を立てていきます。
- ・防災備蓄品の賞味期限が近づいた飲料水は配布させて頂きました。今後も定期的な配布をしていきます。次年度から食品、飲料水など1セットで購入する予定です。

○その他

- ・金沢養護学校の3年生の実習を受け入れ、入所希望もありましたが現状毎年受け入れる体制は環境的にも整っていません。より多くの希望やニーズに応える為に将来的により多くの利用者を受け入れていけるような環境体制つくりが急務と考えています。

2、事業所運営

職員体制：常勤 2名 非常勤 1名 パート 1名

- ・管理者とサービス管理責任者が兼任という形になりました。新しい利用者を迎え、職員の勤務体制も変わった為、今年度、管理者はトライIに専念する形を取らせて頂きました。

閉所中にはトライⅡへトライⅠ職員を臨時のではありますが勤務してもらっています。トライⅠとトライⅡはひとつの事業所になりますので職員も利用者さんもより自由に交流を深めていければと考えております。

会議

- ・毎週木曜日にトライⅠでの部署会議を実施しています。一週間の予定の確認と振り返りと気づきを職員間で共有出来るようにしています。毎日の振り返りの時間を設け一日の様子を記録しています。Zoomにて一か月に一度の日中活動会議を実施しています。利用者の様子や変化を他部署の職員とも共有出来るようにしています。
- ・他部署、外部の方を招いてケース会議を実施しています。
- ・グループホーム奏の職員会議、Iさんのケース会議など実施しました。

○研修体制

- ・一年目の職員の講習やサビ児管の更新研修、虐待防止、意思決定支援など参加しました。

○BOP 業務継続計画に伴う策定

- ・現実的な被害想定をして非常時にしっかりと機能をする計画を立てていきます。災害の時間帯により対応が大きく異なり、対応も大きく変わりますが、様々な想定をして活動中に必要な避難計画、必要な防災用品の充足化を図ります。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- ・クッキーの売り上げが主になっています。毎月の売り上げは増えておりますがそれに賞与の現状維持と旅行積立金を再開し貯蓄金から還元をしましたので繰越金は例年よりも少なくなっています。今年度は寄付して保管をしてあった銅線をすべて売却して製品の売り上げとして計上しています。冬季の賞与として支給させて頂きました。来年度は販売の機会を増やしていく必要があると考えています。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

- ・新しい利用者が久しぶりに入所されて一年が過ぎました。お互いの戸惑いがある中で課題を本当に楽しく過ごせていたかは解りませんが笑顔を沢山見てくれたように思えます。これからお互いに知り合い、得るものがあり、他のみんなにも良い作用のある時間を共有していくことを望んでいます。

(1) 一人一人があらゆる可能性にチャレンジしながら、製品作りに参加出来る作業内容の工夫と拡

大を図って行きます。

○一人一人の個性を活かし本人たちの得意なことから活動や仕事に繋げ、作業内容を考えるようにしていきます。製品作りへの参加が充実してきています。

(2) 集団の中で認められる事を通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間通しの関係作りを進めます。

○自分たちの場所であることを感じてもらえるようにお互いがお互いを認め、過ごしやすい場所つくりを心掛けます。新しい方を迎えて個々感じることはあっても大きな戸惑いはなく、しっかり新しい環境を受け入れてくれています。

(3) お客さんや地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

○直接、来所して商品を購入して頂いたりすることもあり、地域の清掃を再開したり、自分たちの活動を知ってもらえるようにしています。

(4) 一人一人の願いに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行ながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

○本人が主体となる活動を通して充実した将来の生活に繋げていく計画を心掛けます。日常の中で必要な何かを気付いていけるような視点を大切にしています。

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分達の職場として主体的にその運営に関われる条件作りを積極的に行っていきます。

○毎日を過ごす場所であり、自分の気持ちを伝える事の出来る場所、安心して過ごすことの出来る自分達の場所にしていきます。

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係作りに努めます。

○共に過ごす時間が長くなることで解ったような気にならず、自分たち支援者が利用者と社会との接点であること、最も身近な他人であることを意識して家族との関係も大切にしていけるようにします。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である使用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りの為に必要な行動を一緒に取り組んでいきます。

○制度の動向の変化は常にありますので変化を意識し日常を過ごす社会の中での活動を中心として自分たちの場所をつくっていきます。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援（実践報告書用）

新しい生活が始まるのは、迎える方はともかく新生活を始める方は良い事ばかりでは無く、今までとは環境が大きく変化する訳ですから、先の解らぬ事や見通しが付き難い事で不安も沢山あると思います。自分の中の安心が出来る何かを探し、自分のやり方やペースを保つことで落ち着き、穏やかに過ごす方法が、人それぞれの拘りやルーチンであり、不安の表れや訴えが問題行動と呼ばれてしまうのかもしれません。先が見えない生活の中では安心感を得る為、穏やかな気持ちでいる為に必要なことであり、どのような拘りも他者が一方的に不必要だと判断することが出来るものでは無いようです。しかし殆どの人は新たな生活に見通しが持てるわけではなく、一人でいることが好きだとしても誰かと関わりながら生きていかないとならない世の中です。他者と関わる以上、社会で生活をする以上は何らかの作用はあり、何が起きるか予測が付かないことや変化が起り続けるのは必然で変化に向き合わなければなりません。望まずとも課されてしまうようです。それをどう受け止め、受け入れていくかということになります。誰かの造ったモラルやルールと自分の持つ、拘りと折り合いをつけなければならないようです。大きい声を出したくなったり、走りたい衝動に駆られたり、その思いはいつも突然現れます。その時の周りの世界に理解があるとは限りません。理解をされなければならない訳ではありませんが、誰であるにせよ、初めてがあり、最初から解る道理などは無く、解り合える人が多くいるのは至極当然の事だと思います。経験から学ばなければなりません。自分自身の為に向き合い、生きていく一つの方法としてはこれから起こる多くの事柄を良い事も悪い事もしっかりと経験をして向き合う必要があり、その経験はいずれ穏やかな一時、平和な時間に繋がっていくよう思えます。一人でない世界に生きるのならば平和を望むならば人はお互いに関わり、知り合う必要があるようです。新しい事、解らない事、人と向き合う、受け入れる気持ちを持って貰えるように私達は伝え続ければなりません。何度も何度も繰り返していくことになるでしょう。ただ解り合うことを急ぐ必要はありません。時間はモラルに似た、とても大切な物ではありますが誰かの目安や基準でしかなく、感じ方は人それぞれのようです。嫌いなものを好きになる必要はありません。誰かの時間は掛かっても様々な経験を重ねていけば不安だったことも不安で無くなり、笑っている、安心して穏やかに過ごせる時間が長くなっていくでしょう。その時間を長く感じる事は無くとも些細でも安心なひと時の連続が幸せなことのように思えます。いつか、いずれ伝われば良い事なのだと思います。ならば不本意ながらも「またか」と思われながらも伝えていかなければなりません。どうしようもないことはあってもするべきことは必ずあり、この世界がどんなに不条理だと感じてもその世界に誠意持って向き合うことで自分自身の心の平和は生まれることになるようです。

2023 年度 「トライⅡ」 事業報告

1、利用者支援

利用者： 11名

男性：7名(グループホーム利用者 2名)

女性：4名(グループホーム利用者 2名)

年齢：25歳～64歳

給与及び賞与

基本給：150円／日

手当：所属年数による手当て：1年目 0円 2年目 10円／日 3年目 20円／日

4年目 30円／日 5年目 40円／日 6年目以降 50円／(上限)

賞与：夏季（7月）：3000円 冬季（12月）：5000円 春季：50000

前年度(2022年度)実績 夏季 3000円 冬季 5000円 春季 なし円

作業・日中活動

- ・クッキー作り・配達・クレープ生地ベースの受注生産
- 買物・シール貼り・外販売(トライⅡ前)・調理実習
- 絵画教室など
- ・プリント(クッキーのパッケージのシール貼りや字の練習・計算など)
- ・クリスマス会・忘年会・日帰り外出(小グループに分かれて)

販売

- ・店頭売り・ともしびショップ(市役所・県立大学内)・長沢ベーカリー店頭・ほっとピア・Keepsmile Yokosuka(ハウジングプラザにて4月と11月にそれぞれ2日間イベント販売) サンカフェ(長沢)・茜洋舎オープンデー・グループホームもえぎ

調理、エアロビ、絵画教室

- ・調理：調理代￥350(毎月の実施回数を調整しながら月に1階程度実施。コロナの影響により、買い物での感染リスク、急な勤務変更などを想定して)
- ・絵画教室：講師(倉田氏) 講師料￥4000(月1回実施)

旅行・外部活動

- ・文化会館絵画展の観覧
- ・みかん狩り
- ・忘年会(今年はピザを注文してみんなで食べました)
- ・3 グループに分かれての日帰り旅行(市内ドライブ・横須賀美術館・八景島シーパラダイス)

健康管理

- ・看護師訪問：1回／月 岩元看護師
血圧・体温・体重・脈拍計測・様子の観察、助言、相談
- ・健康診断：6月28日(まちの診療つるがおかにて身長、体重、血圧など、心電図、胸部レントゲンなど)
- ・医療懇談会：1回／年 春田医師(中央診療所)・法人各部署

防災

- ・避難訓練3回／年(4月、10月、3月)
火災や震災を想定して実施。震災時の避難先は文化会館。
「171」の緊急伝言ダイヤルの試用を実施。操作に離れが必要で伝言を残したい先の電話番号を入力する際に、番号を書き出して携帯しておくとやりやすいという方法を部署内で確認しました。

その他

- ・赤い羽根共同募金も事業所での実施という形で参加させて頂きました。少額ではありますが12月末に社協担当者へ募金を收めています。

2、事業所運営

職員体制

- ・常勤2名
- ・非常勤2名(内1名は月と木にトライⅡに勤務)
- パート職員2名(月・火・金1名、火・水・木1名)

会議

- ・振り返るだけでなく、最大30分～40分程度で、日々の懸案事項について(利用者さんの様子から、作業内容、翌日の予定など)話し、支援に対しての共通認識や困難に感じていること、支援の方針などを話合いました。
それをメモしながら、参加出来なかった職員にも共有しています。

研修体制

- ・第1回接遇・マナー研修（動画配信版）
新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会（7月3日西村）
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）（11月30日～12月1日斎藤）
強度行動障害支援者養成研修（実践研修）（1月17日～18日斎藤）

関係団体との連携

- ・横須賀の福祉を推める会
- ・下町作業所
- ・作業所連絡会
- ・きょうされん
- ・ショートステイ事業所（ピースカラー）
- ・移動支援事業所（横須賀ヘルパーステーション、湘南クリエイティブ、ピースケア）
- ・生活介護事業所ゆずりは（利用者1名兼用利用）
- ・生活介護事業所けいしんデイサービス（利用者1名体験利用付き添い）
- ・グループホーム郷

3、製菓・製品製造 課題と総括

- クッキー（ハロウィンやクリスマスの限定クッキーを製作）
 - ・売り上げには前年度と比較すると増えており、前年度は出せなかった3月の賞与も出すことが出来ました。
 - ・利用者さんが主体的に作業を行うことをテーマにしながら、そのために必要な補助や事前準備なども工夫しながら支援しました。具体的には生地作りの日と成型の日を分けることで準備を一日に集中させ職員の準備の負担を減らし、支援に向けられる時間を作るようにしました。今まででは生地を冷凍していなかった種類のクッキーも、業務用の冷凍庫であれば品質を保ちながら保存できることも確認しながら、新しいやり方を導入してきました。
- 作業所連絡会を通してご紹介いただいた案件で、横須賀中央駅前のクレープ屋さん（She loves crepe）よりクレープの生地ベースの製造を受注する作業を8月より開始しました。液体を計量しシーリングする作業は粉物を計量する感覚とは違い、苦労する部分もありましたが緊張感を持ちながら繰り返し取り組んできたことで、少しづつ上手に行えるようになってきています。

4、今年度重点目標の（運営方針）課題と総括

トライ〈I. II〉運営方針（重要事項説明より）についての総括

(1) 健康に過ごせることや見通しのつかない状況の中で、利用者さんが少しでも安心や楽しいと感じられたり、やりがいを感じられる事業運営を心掛けたいです。

通常は室内での活動が主体ではありますが、気候が良いときに屋外へ散歩などに出られる機会が少なかったと思います。理由としてはクッキーの注文などの為に製造作業を優先しなければならない状況が多かったことや職員配置上の問題です。

(2) 集団の中で認められることを通じて、自分が必要な存在である事が実感できる仲間同士の関係作りを進めます。

1階から3階までのスペースを使い、仲間同士で過ごす時間や個別の空間や時間を必要な時に提供できるように支援しました。個別の部分と集団の部分を区分けながら適切な距離感を探りながら対応を考えています。

(3) お客様や地域の人々との関わりを通じて、利用者一人一人が、自分の仕事の重要性や喜びを感じられるような地域との関係作りを進めます。

クッキーを買いに近隣の方たちが来てくれることが徐々に増えてきています。活動でもごみ拾いをしたり近所の八百屋で買い物をしたりしています。お店の前で販売をすると通りすがりの方も目を向けてくれますが、23年度は実施できた数は前年度より少なかったです。

福祉関連以外の団体とは、ハウジングプラザ横須賀で年2回(4月、2日間と11月、2日間)開催される犬猫の譲渡会でトライI・IIの製品を売りました。

他には、横須賀中央駅前にあるクレープ屋さんから生地ベース作りの仕事を頂き、23年度8月から取り組んでいます。目立つ位置にあるお店なので利用者さんも認識しやすくやりがいを持って取り組めている様子です。

(4) 一人一人のねがいに基づいて、利用者の中に存在する可能性が開花し、充実した人生が送れるよう個別支援計画を作成し、定期的な見直しを行ながら支援方針を確立し、職員集団全員で取り組んでいきます。

日常的には個人の特性に合った仕事内容を導入し、得意なことを活かせるようクッキー作りの中でも役割を分担しています。例えば、数えるのが得意、細かい作業が得意、同じことを繰り返すことが得意、得意なことに注目し職員のフォローも含めてお互いに補い合いながらクッキーの製造作業が成立するようにミーティングでも支援内容を話し合いながら工夫して支援しました。

(5) 利用者一人一人の意思を尊重し、自分たちの職場として主体的にその運営に関われる条件づくりを積極的に行っていきます。

一人一人とのやり取りの中で言葉や行動などを見極め意思を汲み取りながら、

活動内容や必要な対応やフォローを考えています。場面に寄ってはご本人の意思には添い難い状況もあります。しかしながら、そのような状況を察して一生懸命に受け入れて行動されている部分もあります。柔軟に融通を利かせられることも少しづつ経験として積み重ねられたらと思います。

(6) 支援者の感性を養い、利用者の些細な行動や小さなつぶやき等、利用者からの発信を素早くキャッチし、利用者家族の気持ちに寄り添った必要な支援を素早く行い、利用者、家族から何でも相談してもらえる関係づくりに努めます。

一人一人とのやり取りの中で言葉や行動などを見極め意思を汲み取りながら、活動内容や必要な対応やフォローを考えています。日中の活動場での支援はご自宅やグループホームなどの過ごし方と関連し影響しあっていることは当然のことではありますが、日中の様子だけで考えてしまい憶測が先行しそうになる事があるため、ご家族やグループホームからの情報も活用していくことがより必要だと考えます。

(7) 障害福祉に関わる制度の動向に注意し、当事者である利用者、家族に対して、障害のある人の権利保障に関わる情報提供を行うと共に、地域で誇りを持って暮らせる社会作りのために必要な行動をいっしょに取り組んでいきます。

く市内での福祉事業に関する制度の動向などについては、事業所の職員として情報の収集から発信まで十分に果たせたとは言えない状況です。研修や関連事業所との情報交換、市内はもとより県内、国内における福祉制度の動向には意識を向けてトライ(事業)の特性に合わせた情報を中心に学んでいく努力をしていきます。

>

2023年度 「長沢ベーカリー」事業報告

1、利用者支援

利用者： 16名

男性：10名 女性：6名

作業・日中活動

- ・パン製造、販売を中心とした作業を続けており、新しいメンバーも溶け込んで 1 年間過ごすことができた。
 - ・イベントはほとんどが戻っており、3 年ぶりとなる日帰り旅行も実施、福祉バスともしひ号を借りて小田原へと出かけ、秋には運動会にも参加をするなど、作業活動以外で楽しさを提供できる機会が多くあった。
- き見送ったが、11 月にみかん狩りに参加、1 月には新年会で初詣や食事会などを行った。

販売

- ・コロナ禍の終わりがみえたこともあり、販売実績は安定している。店舗への来客が増えしており、1 日を通して売れ残ってしまう日が少なくなっている。一方で原材料は値上がりが続いているが、これが継続するようであれば値上げなども検討しなければならない。

・主な外部販売

岩戸支援学校、武山支援学校、市立支援学校、ケアホーム三浦（高齢者施設）、スマートストア（通信研究所内コンビニ）、北下浦コミュニティセンター、横須賀の福祉を推める会、サンカフェ広場など。

旅行・外部活動

- ・昨年度は 3 年ぶりの日帰り旅行で小田原へ。初めて参加をするメンバーも多く、出発時は緊張感もみられたが天候にも恵まれ楽しむことができた（小田原城～昼食～道の駅で買い物）
- ・11 月には運動会、みかん狩り、1 月には新年会（初詣、外食）と季節の行事も多く実施することができた。

健康管理

- ・コロナやインフルエンザに罹患するメンバーまたは家族などもいたが、幸い事業所内で広がることはなく過ごすことができている。
- ・健康診断など大きな病気はなかったが、全体的に体重が増加傾向であり、今後の生活習慣病などが心配な部分。活動でもウォーキングを行ったりと適度な運動は実施しており、

ご家庭とも相談をして食生活も見直していきたい。

防災

- ・年に3回の避難訓練を実施。1月の能登の震災を受け、訓練の内容の見直し。事業所外で被災した場合などを想定し、ハザードマップなどと照らし合わせ安全なルートと避難先を決める。また災害時マニュアルを作成し、全従業員へと配布を行う。171の災害伝言ダイヤルについても使用方法などについて練習を行った。

2、事業所運営

職員体制

- ・職員に欠員が出ている状態が長く続き、パート職員にも応援をお願いをしながら職員体制の維持を行っている。その為販売計画も見直し、職員の負担を和らげる為、月2回程度は店舗をお休みとし、外出活動などを行っている。

会議

- ・毎日の振り返りミーティングを継続、支援のことを中心に話し合いを行っている。

3、製菓・製品製造 課題と総括

- ・夏場に売り上げが落ちるのは例年通りのことであり、秋からは持ち直し安定した売り上げを続けることができている。特にイートインのお客様が増えたり、電話にて注文をされる方も増えている傾向がある。パンの作成量も増えているが、職員や利用者の負担にも繋がる為、無理のない範囲でのパン製造を心掛けており、外部注文に関しても可否の判断は職員間でも話し合いを行いながら慎重に判断をしている。

4、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

【利用者支援】

- ・4月より1名が入所し16名となった。新しいメンバーもすぐに溶け込むことができ、大きなトラブルなどもなく1年間を過ごすことができている。
- ・メンバー間での相性により、どうしても同じフロアで活動ができなかつたり、同じ車に乗れないなどの問題があり、活動の幅が狭くなってしまうなどの課題がある。相性については様子を観察しており、時間とともに打ち解けているケースもあるが、以前として変わらない関係性のケースの方が多い。

- ・ご家族からは将来の生活を見据えて短期入所利用の希望が相次いでいる。受け皿の問題ですぐに利用とはならず、事業所からも入所施設に対して話を持ちかけている状態。

【店舗運営】

- ・販売は好調を維持できており、賞与に関しては夏季 5,000 円、冬季 10,000 円を支給。日用品などもできる限り授産金で支払うようにしている。
- ・加盟しているサンリヴ商店街の会合にも参加。昨年度は商店街で取り扱う商品券を年に 3 回販売し、それを機会に多くのお客様に来店していただいた。

5、自己決定に基づく将来に向けての支援

- ・それが取り組んでいるチャレンジをサポートしていくことに加え、他のご家庭からも将来の生活に向けてのニーズは多くきかれている。情報発信を行いながら一緒に取り組んでいけるようにしてきたい。

2023年度 ほっと・ホット 事業報告

はじめに

昨年末にベテラン常勤職員が退職し、支援の共通認識や個々の情報を重点に、職員が働きやすく、みんなが安心して過ごせる環境を提供していくことを考え、課題としていますので、これからも継続します。新年度のスタートと同時にパート職員から1名常勤職員となり、県大生が3名夜勤で入ってくれていますが、実習などが始まると、支援体制がまた厳しくなります。

利用者支援

利用者：男性4名 女性：2名（44歳～51歳）

過ごし方

生活スタイルに大きな変化はありませんが、帰宅後すぐに入浴をして、その後ゆっくりしてもらう流れに慣れてもらいました。休日など思うような外出ができるないかもしれません、近くのコンビニなどで昼食を買いに散歩することで納得してくれたり、ドライブすることを楽しみにしています。

健康管理

大きく体調を崩される利用者さんはいませんでしたが、それぞれ通院の機会は増えており、グループホームの職員が同行して対応をしています。また車椅子の利用者さんに関しては、訪問マッサージのサービスを週に1回ホーム内で利用しています。

防災

防災訓練を年に3回実施しています。地震などのニュースでも不安に感じる利用者さんもいるので、備蓄品なども含め、様々な対応を検討しないといけないと考えています。

将来に向けた取り組み

週末の開所は月に2～3回となっており宿泊の利用者は3～4名程度となっています。金曜日も含めてグループホームに宿泊するメンバーが増えており、それぞれ良い表情で過ごされています。365日の開所に向けてスタッフの育成・確保は急務になってきています。

旅行・イベント・余暇活動など

祝日などの対応は職員とドライブに出かけたり、近くを散歩したりと、ごく小範囲での活動となっています。

ヘルパーや家族と行きたい場所へ出かけ、気持ちをリフレッシュする時間を作ってもらっています。

事業所運営

職員

常勤 2名 支援員パート 12名（うち学生 3名）

調理員 2名 清掃員 0名

会議

月に1回ほつとホットスタッフ会議と、グループホーム会議を実施。グループホーム会議は常勤職員で実施しており、各部署の会議でも情報を共有しています。

（スタッフ会議に参加できなかった方にも会議録を見てもらい情報を共有）

研修体制

2023 年度サービス管理責任者研修

夜間を含む人員体制

県立保健福祉大学から3名の学生が宿直アルバイトとして加わっていますが、実習により休みも多くなります。長年支えて下さっているパート職員が徐々に定年を迎え、また定年間近となっていることや、週末や朝に対応できるスタッフが少ないことなど、人材の育成と確保が現状の課題です。

地域生活

地域交流は持つことができませんでしたが、大津ボランティアセンターの皆さんに支えていただき、洗濯たたみを行ってくださっています。

今年度重点目標（運営方針）課題と総括

コロナやインフルエンザに関して油断ができない状況ではありますが、グループホームでの暮らしあいつも通りの暮らしを提供することを目標とします。医療面においてはそれぞれが年齢を重ねる中で需要も増えてきており、今後も健康面のサポートは最重要課題になっていきます。それぞれの特性に向き合い支援していきます。

自己決定に基づく将来に向けての支援

グループホームでの生活に比重が大きくなりつつありますが、体制面で言えば 365 日開所を開始できる職員体制が課題であり、支援と環境のバランスを整えていきたいと思っています。

2023年度　にじいろのパレット　事業報告

はじめに

2023年度は少しずつコロナからも解放され、少しずつ以前のような日常が戻ってきました。

グループホームで当たり前の生活があたり前のように過ごせることが本当にありがたく心から感謝しました。変わりなく過ごせる毎日の中で、自分の時間を楽しめることが増えたように思います。グループホームがご自身の居場所であり、くつろぎの空間であってほしいと願います。

利用者さん、ご家族、スタッフ共に健康で穏やかに過ごすことが出来た1年であったと感じます。

1、利用者支援

利用者： 男性：4名 29歳～41歳

過ごし方

居室で過ごすメンバーが多い中、スタッフと一緒にTVを見たり、一日の出来事などをリビングで会話を楽しむことも多くなってきました。会話の中から、コミュニケーションが生まれるのでスタッフも楽しみにしています。移動してきた職員にも良い表情を見せるなどグループホームでの暮らしを続けた中で色々と成長した部分もあるのではないかと思います。

健康管理

体の源であり、生きていく上での活力である食事については調理員をはじめスタッフとMTGを持っています。管理栄養士の献立の元、組み立てていますが、人材不足がいとめず毎週金曜日の夕飯は「ヨシケイ」から食事の提供を受けています。量については、少々足らないようですが、スタッフが野菜やスープ、タンパク質を考え1品増やして対応しています。年齢を重ねるにつれ生活習慣病の予防・改善も考えていく必要性もあります。

研修体制

常勤職員の体調不良もあり、外部との会議での意見交換にとどまっています。

夜間を含む人員体制

長年勤務してくださっているパート職員さん中心に行ってています。

安心と信頼があり、とっさの判断にも大変心強いものがあります。

法人内のグループホームが 1 つになり行ってこれたのも大きな事であると思います。

地域生活

BSP 体制も鑑みながら、災害等地域の皆様との交流を考えていますが、残念ながら大きな進展がないのが現状です。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

利用者が自分らしく、落ち着いて過ごせるグループホームであるためには、まず、環境状況の整備、スタッフの心精神の安定、健康を心掛けました。

利用者の笑顔や、スタッフになんでも話せる環境であることに安堵しています。

それぞれの楽しみ方や、スタッフとメンバー間の信頼関係も保てる空間である
ように引き続き支援していきます。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

大きな事故もなく、日々の宿泊に関しては 4 名全てのメンバーが落ち着いて過ごせています。ご家庭の希望としては土日含めた 365 日の開所ですが、メンバーの皆さんにとってはまだまだご実家とホームをバランス良く利用したい想いがあるにも感じています。徐々にではありますが、ご自分の意志でパレットの生活を選択できるよう、安心、安全な暮らしを提供していかなければと思います。

2023年度　にじいろの奏　事業報告

はじめに

2023年度は、様々な行事や活動が再開し始め、街にも少しづつにぎわいが戻ってきたように思います。コロナ、インフルエンザとまだまだ油断はできませんが、負けない身体を心をつくり、1歩1歩前へ進んでいけるように、今後もこの環境の中で引き続き取り組んで行きたいと思います。

1、利用者支援

利用者： 女性：4名 28歳～48歳

過ごし方

それぞれ居室、リビングと好みに合わせた生活をされています。本来は、コロナの影響で蜜を避ける為でしたが、今ではライフスタイルとなり、それぞれの希望を尊重した過ごし方を優先しています。安全対策として手洗い、消毒、マスクなどは、継続して行っていくよう心掛けています。

健康管理

検温を含む体調の観察は勿論、メンバーの体重の増加もあり食事のメニューと摂取量にも気を取り組んでいます。また感染症対策として体温計の消毒、加湿器の使用、換気などの対応にも努めました。日々の健康管理については、例年同様月に一度の看護師の訪問の際に相談をさせていただき、各ご家庭にも報告をし、気になる部分についてはご家庭と個別に面談するなどして一緒に取り組んでいます。

防災

パレット、奏合同で避難訓練を実施しています。メンバー、スタッフが、屋外に出て近隣までの避難としました。最近も地震が頻繁に発生しています。実際に避難する時間、持ち物などを考えるとスムーズにはいかないことを考慮し、色々な場面を考えた訓練を行っていかなければと考えています。防災グッズの点検なども計画を立て、賞味期限などの確認、補充も行って行きたいと思います。

将来に向けた取り組み

パートスタッフも増員し、ギリギリの人数ではありますが連携を取り、日々の支援に力を注いでいます。体制的には、奏・パレット・ほっと、グループホーム一丸となってホローリし合いながら安定した支援を目指します。その為には、突然のアクシデント、スタッフの補充などにも即座に対応できるチームワークを目指して行きたいと考えています。

・旅行・イベント・余暇活動など

引き続き、旅行、イベントなどの参加、余暇での外出、などは一切行えませんでした。室内で過ごす環境の中で、誕生日、クリスマス、七夕などの行事は、密を避けケーキを食べたり、シチュエーションに応じた食事を提供したり、季節に応じた室内的装飾、昼食なども宅配で好きな物を注文するなどして、ささやかですが楽しんで頂きました。今後は、可能であれば野外活動が出来ればと考えております。

2、事業所運営

職員 23年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週1日) 支援員パート4名

調理員1名 清掃員1名

24年度 常勤1名(週5日) 常勤1名(週2日) 支援員パート3名

調理員0名 清掃員1名

会議

GH会議は月に一回行い、奏(スタッフ)会議も月に1回行っています。情報の共有、問題点などの相談や報告を行い、なるべく話し合うスタイルを取って参りたいと思います。

夜間を含む人員体制

職員体制として女性のスタッフのみの配置は、昨年同様変わらず 21:00迄は、遅番含め二人体制での支援となっています。夜勤スタッフに欠員が出た際は、応援若しくは、常勤スタッフが対応して参りました。グループホーム間で助け合えるよう努め、情報なども共有しています。

研修体制

今年度は、にじいろのパレット・奏として防火管理者を立てたく、新規講習に行って

まいりました。

地域生活

BCP の体制も鑑み、町内活動にも積極的に参加していきます。

3、今年度重点目標（運営方針）課題と総括

先ずはスタッフも健康に気を付けて万全の体制を整え、皆さんが安心して過ごせる環境を目指して行きたいと思います。事故や怪我などにも気をつけ、安全な暮らしが出来るよう、特に夜間帯に気を配るよう心掛けていきます。健康面でのサポート、消毒、マスク、手洗い等も引き続き行い感染防止にも努めて参ります。

4、自己決定に基づく将来に向けての支援

メンバーがまだ若いこともあります、皆さん元気に過ごされています。ずっと奏に居たい方、週末の帰宅を楽しみにされている方、将来的には 365 日の開所が待っていますが、まだまだご実家との生活の両立に気持ちが揺れています。皆さん様々な思いで生活されています。これからも将来に向けて、様々な問題があると思いますが、心穏やかに、居心地の良い居住空間を提供出来るよう目指して行きたいと考えています。